

天地

ネットワーク テーブル 487号

天地シニアネットワーク 2019.1.31

TENTĪ TODAY		1
会員の広場	<スポーツの醍醐味>	2
連載作品		3
歴史	米国の統治の仕組みと大統領制、と建国の父たち (2)	佐川 雄一 3
随想	「静聴雨読庵より」(2)	尾関 陽四 6
随想	『誰も見てなくても悪いことをしない社会』(2)	臺 一郎 9
記録	ブドウ栽培奮闘記 (3・最終回)	森永 善彦 10
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語 (59) 北野線の古刹3・等持院	大竹 漢洲 12
講演会	「奈良興福寺文化講座」 「新三木会」	14
商品情報		15
事務局		16

TENTĪ TODAY

気が付けば早くも2月、驚きです。1月は、箱根駅伝、ラグビーの大学選手権、大相撲の初場所など、恒例のスポーツ・ビッグイベントがありましたが、女子テニスの全豪オープン、サッカーのアジア杯、最近になく痺れ、スポーツの醍醐味を満喫しました。

あと一本、勝利を目前にしなから逃し、涙して落胆した表情を見せましたが、一人で立直り勝利した大阪ナオミ選手の精神力、サッカー、対イラン戦、イラン選手とせりながら最後まで気を抜かずボールを追いかけ、大迫選手にパスを出した南野選手の冷静さ、共に素晴らしいものでした。スポーツ関係者には最高のお手本でしたが、スポーツをしない人にも、いろいろな意味で参考になったのではないのでしょうか。

不確実な政府統計が問題になっていますが、基本的な問題として、日本の国力、信義につながる問題で心配です。日本の公的なシステムがここまで劣化していたというのを知りませんでした。

日本経済新聞朝刊・1月30日の<オピニオン&フォーラム『敗北日本生き残れるか』>にあった、経済同友会代表幹事の小林喜光さんのインタビュー記事、「技術は米中が席卷、激変に立ち遅れ、挫折の自覚ない」、その直言は説得力があり、賛同するところが多くありました。

日本の将来、これから＜どうなるか＞よりも、これから＜どうするのか＞を国民一人一人が真剣に考えるべき時に来ています。

2月1日からいよいよプロ野球のキャンプイン、＜球春＞到来です。今年も話題豊富のようですが、注目しているのは、再登場の巨人・原監督、広島移籍の長野選手、ロッテ入団の高卒新人藤原選手、の3人。テレビで見ただけですが、藤原選手は、攻守走、三拍子そろったスケールの大きい選手のように、素質は十分、必ず頭角を表すと確信し、楽しみにしています。セ・リーグ最良なのですが、リーグを越えて、その将来性に期待しています。

伊那闊歩さん、広島市内への住居変更は済んだそうですが、引っ越しに伴う手続き、片付けが大変で、連載中の「天のわざ、地のほまれー地球を測れ、宇宙を測れ」を一回お休みしますと連絡がありました。蔵書の移動だけでも大変なのではと推測しています。

会員の広場

「スポーツの醍醐味」

女子テニスの全豪オープン決勝の生中継を見て、テニスがこんなに面白いというのを初めて知りました。大阪のおみ選手の2セット目の最後、絶対的に有利な状況下、一つ決めれば勝利というところで決められず、その後大逆転されてセットを落としてしまいました。どんなスポーツでも（人生でも同じですが）、このような状況になると、立ち直るのは難しいものです。ましてテニスは、試合が始まると一人で戦う孤独なスポーツ、彼女が最終セットどのように戦うか、興味をもって見ていました。勝てば本物、負ければ致し方なし、実力上位の相手の選手が、こんなはずがないというように顔をしかめていたのも印象的でしたが、見事立ち直り危なげなく勝利しました。

それまで新聞報道で懐疑的に見ていましたが、大阪選手の実力は本物というのを確認しました。まだ20歳、彼女の時代がどこまで続くか、次にどんな選手がでてくるのか楽しみです。

それにしても、最近の日本のスポーツ界、速いスピードで若年化が進んでいます。卓球界、中学生がオリンピックに何回も出たベテランの超一流選手を破り、さらに世界1位の中国の牙城を崩しました。水泳、体操、バドミントン、等々、その他いろいろありますが、若年化現象の起点は、学校スポーツから、地域、クラブなどへ指導体制が移行したことにありそうです。

サッカーのJリーグがスタートしたころから、その流れが変わりはじめ、レベルアップした指導者が、直接若年選手を指導することにより技量、精神力が、一気に上がったようです。

学校スポーツから脱却できないのが野球界、甲子園大会がある限り、学校単位は変わらないでしょう。また、陸上競技も、箱根駅伝が続く限り変わらない。

サッカー、ラグビー、バスケットなど、プロ化が進み、国際的に通用する選手が増えてきました。一方で、学校でのクラブ活動は低調となりチーム数が減っているようです。学校も、スポーツ界も対応はまちまちのようですが、

国際化への道は必然です。(津田孚人)

連 載

米国の統治の仕組みと大統領制、と建国の父たち (2)

佐川雄一

5. アメリカ独立戦争 (1775 - 1783 年) の勃発

ここでアメリカ独立戦争に話を移したい。1775年4月ボストン近郊で植民者と英国正規軍との間で武力衝突(レキシントン・コンコードの戦い)が起こる。この事件が引き金になってアメリカ独立戦争(The Revolutionary War, 1775 - 83年)が勃発する。戦いは、軍事力で優る英国軍が優位に展開するが、アメリカ連合軍の抵抗は根強く1783年まで7年間続くことになる。

独立戦争が始まったとき、アメリカには職業的な陸軍も海軍も存在せず、各植民地には**民兵**隊(地域防衛)が存在するのみであった。独立戦争前のアメリカでは、各植民地の民兵隊は英国正規軍の補助的役割を担うに過ぎなかったが、独立戦争が始まると、一部を除いて民兵隊のほぼすべてがアメリカ連合軍に加わった。民兵の装備は貧弱、制服も支給されず、英国正規兵のような訓練や規律を欠いていた。

英国正規軍との武力衝突が起こった翌月の5月10日、13植民地の代表がすべて参加する**第2回大陸会議**がフィラデルフィアで開催された。英国本国との和解を探るが、和解の道が開けず、混とんとした状態が続く中で、ジョージ・ワシントン(当時、43歳)が第2回大陸会議の議長に選任される。

その直後の6月15日には、ワシントンはアメリカ連合軍の総司令官に任命された。専門的な軍隊編成の経験がないアメリカ連合軍の強化には、欧州からの軍事専門家の受け入れが必須と考え、ワシントンはフランス・プロイセン政府に軍事専門家の派遣を要請する。併せ、北アメリカに広大な植民地を持つフランス・スペイン政府に軍事支援の要請工作を開始する。当時のアメリカ人民は“州”を彼らの祖国と考えていたので、連邦意識は極めて薄く、他州まで足を延ばしての戦いを拒否する民兵が多かった。彼らの連帯感をいかに高めるか、ワシントンに課された重要な任務であった。

他方、独立戦争は長期化し、戦局は硬直状態に陥るが、思わぬところでアメリカ優位に転換することになる。1777年10月、ニューヨーク州サラトガの戦いで圧倒的に優勢な英軍がボロボロの服を着た半ば餓死状態だったアメリカ連合軍に敗れるイベントが起きる。

この敗北で約6,000人の英軍兵士がアメリカ軍の捕虜になった。それまでアメリカ軍が、英国陸海軍に対して、勝てる見込みはないと考えていたフランス政府は、サラトガの戦いで勝利したアメリカ軍を見て、独立戦争はアメリカ軍の勝利で終結すると確信する。その結果、武器・弾薬の支援のみならず、最終的には海外にいた軍隊までアメリカに送って公然と軍事支援を始める。1778年6月にはフランスは英国と交戦状態に入る。さらに

独立戦争の運命を決する戦いが、1781年10月、13州中、長い植民の歴史を誇るヴァージニア州ヨークタウンで起こる。アメリカ南部で指揮を執る英国軍の地域司令官：コーンウォリスは、アメリカを破るためにはヴァージニア州を征服しなければならないと考えていたが、英軍優位の戦局が崩れる事態に直面する。

ヨークタウンの戦いが始まる2ヵ月前の8月中旬、ワシントンのもとに、西インド諸島駐留のフランス艦隊がチェサピーク湾（ヨークタウン近郊）に向かっているとの報告が上がってくる。フランス艦隊がチェサピーク湾に到着すると、ワシントンは旗艦を訪れ、フランス艦隊司令官に対し、ワシントン配下の軍隊とフランス軍の地上部隊が共同で英国軍の砦を急襲、同時に海上からフランス艦隊が攻撃を加えれば勝利につながると提案、フランス側が同意し、10月、英国軍への総攻撃を開始する。ワシントンが率いる米仏連合軍が勝利し、英国の地域司令官：コーンウォリスは9,000人の兵士とともに降伏する。英国軍司令官の降伏を目の当たりにしたアメリカ人民は「世界が逆転した」(The world turned upside down)と感極まる。

ヨークタウンの敗北の一報が英国に届くと、国会の指導者の一人は、「なんてことだ。すべては終わった」(O God! It is all over)とうめいた。ここに独立戦争は事実上終結した。他方、スペイン軍がフロリダで英軍と対峙し、さらにアメリカの独立戦争を支援するために多くのヨーロッパ人がアメリカ軍に加勢した。勝利から見放された英国は、アメリカ合衆国と1783年にパリ条約を締結、13植民地の離脱を認め、「アメリカ合衆国」の独立を承認する。併せ、当時、英国植民地であったミシシッピ川以東と五大湖以南の地域をアメリカ合衆国に割譲することが決定する。アメリカの独立戦争は、植民地がヨーロッパの植民地帝国と戦い、勝利した世界初の独立戦争である。

6. アメリカの独立宣言

独立戦争（1775 - 1783年）が始まった1年後の1776年6月、アメリカ13植民地を代表する代議員がフィラデルフィアに集い、アメリカの独立宣言を採択する。独立宣言の起草には当時33歳のトーマス・ジェファーソン（第3代大統領、1801-09年）が選ばれ、2週間で完成する。その後、ジョン・アダムス（第2代大統領、1797 - 1801年）、ベンジャミン・フランクリン（ペンシルベニア大学の創立者）が若干の修正を加え、草案が出来上がった時点で議会に提示、討議・修正を経て、1776年7月4日、独立宣言を国内外に発表する。独立宣言の中で謳われたアメリカ建国の精神は次の言葉で要約される。

すべての人民は平等である、そして人民には、生命、自由、幸福の追求を求める不可分の の権利が与えられる。

That they are endowed by their Creator with certain unalienable rights, that among these life, liberty and the pursuit of happiness.



英国からの正式な独立を宣言する文書を起草する建国の父たち。



「独立宣言への署名」(ジョン・トランブル画)

この絵は、[2ドル紙幣](#)の裏面図版に使用されている。

7. アメリカ合衆国の建国と憲法の起草・制定

17世紀初頭に始まった北アメリカの植民者の数は、その後、飛躍的に増え、アメリカ初代大統領が就任する1789年には400万人に迫っていた。しかし、独立宣言後、連邦国家の枠組みを創るまでの10余年、連邦国家誕生に伴う産みの苦しみが待っていた。

1776年6-7月、植民地の代表団がフィラデルフィアに集合、7月4日、英国からの独立宣言を国内外に発表するが、この独立宣言を受けて、13の植民地は各々母国：英国からの独立を宣言、それから1年後には、3州を除くすべての州が州憲法を起草した。各州の憲法は、権利章典の宣言で始まり「人民に対する人権の保障」(不可分の権利)を明確にした。この権利を英国政府が侵害したため独立戦争が起きたと世界に知らしめた。

同じく、独立宣言の翌1777年、時間的制約はあったもののアメリカ連合規約(13州を束ねる連邦国家の最高法規)を制定し、各州の批准を経て1781

年施行、アメリカ合衆国が国家として正式に発足した。しかし、連合規約は、州政府に幅広い権限を与え、中央政府の権限・責任が大幅に制限されるもので、連邦国家の基盤は脆弱であった。時間の経過とともに、連邦・州レベルの公的債務が累増、財政状況の悪化が明らかになると、州政府レベルでも「連合規約」による“13州と中央政府のゆるやかな連合”では、国内外の諸問題に対応できないとする声が高まる。

その結果、独立宣言から11年が経過した1787年5月、各州を代表する代議員：55人がフィラデルフィアに集い、連邦国家の統治の仕組みを強化する「憲法制定会議」(The Constitutional Convention)が開催される。統治の仕組みの基盤となる国家の最高法規：「合衆国憲法」の起草について議論が始める。喧々譁々の議論が展開され、意見が折り合わず、一部の代表者は会議の席を離れるが、16週間後に最終案が完成する。その場に居合わせた42人の内、39人が署名、1787年9月17日、それまでのゆるやかな連合規約に替えて「より完全な連邦を形成する」合衆国憲法が制定されることになった。(つづく)

「静聴雨読庵より」

尾関陽四

「生きがい」の5つの型 (2)

= 13 =

「やあ、いらっしやい」

「また、お邪魔します」

「前は、人の生きがいには、いくつかの『型』があるのではないかと、というお話をしました」

「自己実現・社会貢献・世界観照、だね」

「そう。そして、これらの型の中で優劣はなく、人生の段階・生活環境などによって、どの型が強くなるか、あるいは、引っ込むかが決まる、ということもお話しました」

「その話を聞いて帰って、しばらくの間鬱々とした気分でした。どう考えても、私には自己実現しか生きがいを見つけれられないのか、とね」

「そんなに卑下することはない」

= 14 =

「私の人生では、2回だけ自己実現の冒険があった」

「それは？」

「1回目は、大学から大学院に進むかどうかを悩んだ時だ」

「そうだったのか」

「指導教官から勧められ、父も大いに期待していた」

「なぜ、踏ん切りがつかなかったの？」

「まず第1に、外国語に自信がなかったからだ。第2外国語としてドイツ語とフランス語は必須だったが、ドイツ語はまったくやってなく、フランス語も十分とはいえなかった」

「確かに語学はやっておいた方がいいね」

「語学の才能がある君がうらやましいと今になって思う」

= 15 =

「もう一つ、指導教官から、基礎理論は若いうちに叩き込んでおかなければならない、といわれたこと」

「君の場合は歴史の理論だね」

「そう。でも、カール・マルクスもアンリ・ルフェーブルもまともに読んでいなかったもの」

「それで踏ん切りがつかなかったわけか」

「研究者になれるかもしれないが、一流の研究者になる見込みはまったく立たなかった」

= 16 =

「それで、2回目は？」

「2回目は、仕事から引退した後に、19世紀歴史文化の研究に没頭しようと考えた時だった」

「その話は前にも聞いたね」

「今考えれば、当然親の介護が目前に迫っていることがわからなければならないはずだが、それが思いつかず、研究に自分を追い込もうとしていたことに気づいて、愕然とした」

「そうだったのか」

「この2回が、私が自己実現に突き進むかどうか逡巡した時だった」

= 17 =

「私の場合、君に言われたよさに、何かやり残したことがあるような気がずっとあった」

「それで、仕事を引退した後に、ワシントンの大学に留学したり、上海の大学に語学留学したりしたわけだね」

「とりあえず、まずそこから始めたわけさ」

「私から見れば、君の場合、語学はできたのだし、基礎理論さえ修得すれば研究生活に入れたのでは」

「留学すれば何とかなる、と考えた」

「『留学』という言葉はあいまいだね」

「・・・」

「普通、留学は若い時にするものだ。仕事を引退した者にとっては、留学に意義を見出すのは難しい。何か高尚な目的があり、それに到達する手段の一つとして留学があるんじゃないか。君の場合、留学だけで満足している」

「そんなことはない」

「量子力学にアプローチするなら、テンプル大学ではなく、UCLA かスタンフォードの大学院に留学すればよかった」

「それが実際、叶わないことがわかった」

「仕事を引退した人が大学などに再入学するのは、私から見れば、何かを極めたいという目的ではなく、それまでとは別の勉強をしてみたいというためではないのかと思う」

「その通りだ」
「それで、君はテンプル大学で何を勉強しようと思ったの？」
「イスラム文明史だ」
「そうか。それは初めて知った。それで、何を持ち帰ったの？」
「歴史の見方、君の言葉でいえば、歴史の基礎理論だ」
「なるほど」

= 18 =

「中国語の語学留学では、何を勉強しようと思ったの？」
「中国語そのものが勉強の対象だ。ちょうど、君がブルーストに夢中になるのと同じだよ。理由は考えないだろ」
「なるほど」

= 19 =

「私は、語学と基礎理論に自信が持てなくて研究者になることを諦めた。君は、語学と基礎理論の勉強に明け暮れているうちに、研究者となる機会を失し、現在に至っている」
「どっちもどっち、だね」

= 20 =

「ご両親は？」
「父は、私が若いうちに亡くなり、その後母に育てられた」
「そうか」
「母も、ずっと前に亡くなった」
「それで、奥さんは？」
「元気になっている」
「すると、君は、今までのところ、介護の機会に接することなく来ているわけだね」
「そうだ」
「すると、これから介護の機会が出現して、社会貢献の生きがいを実感することになると思う」
「そうだろうか」

= 21 =

「何か、社会貢献活動をしたことはあるの？」
「古文書研究の団体に入って、会長を補佐したことはある」
「君の場合は、どこまで行っても、自己実現色が強く、社会貢献色が出ないね。量子力学と中国語と古文書研究、さらに加えれば、イスラム文明史、この四元連立方程式を解くのはなかなか難しい」
「その会長が引退することになって、私も身構えたのだが、途中から入会した男に会長職を渡わってしまった」
「ついてないね」

= 22 =

「社会貢献の活動の要諦は、他人の理解を得やすいこと、だ。マズローは

欲求の型の一つに『尊敬 Esteem の欲求』を挙げたが、これは、他人から尊敬を受けたい欲求のことで、『ああ、あの人はこんな立派な社会貢献活動をしている』と他人に思わせることに意義がある」

「古文書を研究して何になる、か」

「そう。その点、将棋の普及・指導は説明を要しないほど目的が明快だ。また、将棋は日本文化を背負っているので、日本文化の紹介という点でも外国から理解を得やすい」

= 23 =

「中国語を例にとって、社会貢献活動は考えられるだろうか？」

「これだけ中国との交流が盛んなのだから、いくらでもあると思う」

「例えば？」

「友人に、中国との子どもの交流を手掛けている人がいる。自然保護とか環境持続性とかをテーマに、中国の子どもを日本に招待し、日本の子どもを中国に選り出す活動をしている」

「それだと、中国語も役立つわけか」

「そう。語学は道具だと思う」

(つづく)

参考資料:

A・H・マズロー (小口忠彦訳) 「人間性の心理学Ⅱ (1987年、産業能率大学出版部)

A. H. Maslow 'Motivation and Personality' (Second Edition, 1970, Harper & Row Publishers, Inc.)

『誰も見ていなくても悪いことをしない社会-その2』 臺 一郎

ー電気と道のあるところ自販機ありー

日本は世界的に見ても、正直で善良で順法精神の旺盛な人の多い国だと思う。その意味で日本の社会は人間性善説で成り立っていると言える。農村部に行くとしばしば目にする野菜の無人販売所なども、人間性善説の社会だから続いているのだろう。

このように、窃盗や万引きなどの犯罪を想定しない物品の販売形態は、地方の小規模スーパーやドラッグストアなどにも見ることができる。店の前の歩道上に何台ものワゴンを置き、そこに日用品ならトイレットペーパーとか洗剤など、生鮮食品ならバナナやミカンなどの単価の安い商品を山積みにして販売している。店員は店の奥のレジのそばにいるから、歩道のワゴンなどはほとんど見えないし見ようもしない。商品を黙って持ち去ろうと思えば簡単にできる。

その光景を見た知り合いのフランス人が『あれじゃ盗んでくれと言っているようなものじゃないか。なんであんなバカな事をするのか』と聞くから、『日本では滅多に盗まれないんだ。特にこのような郊外の住宅地の中の店舗ではね』と答えた。彼は信じられないといった顔をして『もしフランスでこんなことをしたら、あっという間に盗まれるし、訴えても、そんなバカな売

り方をするからだ」と相手にされない』と言った。

ところで海外では先進国であっても、清涼飲料やタバコなどの自動販売機は機械を壊して中の商品や現金を持ち去る犯罪を誘発するという理由から、空港ビルの中や駅構内などの限られた場所にしか設置しない国が多い。その点わが国では、全国の津々浦々、電気と道路のあるところならどこにでも多様な自動販売機が設置されている。ちなみに全国にある自動販売機の台数は、2017年時点で、飲料系が244万台、その他タバコ、食品、新聞等の販売機を含めると298万台だという。自販機を街のどこに、或いはどのタイプを設置するのかを判断する際の決め手は、どこなら自販機の利用が見込めそうか、どこならどの商品が売れそうかであって、どこなら自販機を壊されないかとか、中の商品や現金を盗まれないかという判断基準からではない。

例えば、夜になれば人通りがほとんど途絶え、車の交通量も減る地方の農村地帯の道路沿いにも、飲料の自動販売機などがポツンと置いてあったりして、それが街灯や常夜灯代わりになっている。訪日外人の中には、至る所にあるこれらの自動販売機を見て『まるで道端に金庫を置いているようなもの』とあきれられる人も多い。

さらに自販機で売られているのは飲料だけではない、タバコ、新聞、麺類、米、菓子パン、そして小型玩具やアイスクリーム、更には下着までもが売られている。また一部の消費者金融業者などは、郊外のロードサイドの飲食店やパチンコ店の駐車場等に、無人のATMを設置している。ATMの中には飲料の自販機などとは比べ物にならないほどの多額の現金が入っている筈で、嚴重にロックされているとしても、治安の悪い国ではまずあり得ないサービス形態だろう。

これなども人間性善説の社会でなければ、そして実際によほど民度やモラルの高い善人の多い社会でなければ、成立しない販売形態と言える。

高名な日本文学研究者であって、文芸評論家としても知られ、2012年に日本に帰化したことで話題となったドナルド・キーン氏は、50年ほど前に京都大学に留学していた頃の忘れられないエピソードとして、清閑寺という寺を訪ねたときのことを自伝の中で次のように紹介している。

『ご本尊の千手観音は、その手の多くが欠けていた。欠けた小さな手は皿の上に集められ、観音像の前に置かれていた。これがよその国であったなら、まず間違いなく盗まれていたに違いない』と。

こうしてみると、日本社会は世界と比べて明らかに「誰も見ていなくても悪いことをしない、そして正しいことをする」善人の多い社会のようだ。

ブドウ栽培奮闘記 第3回(最終回) 森永善彦

葡萄栽培奮闘記第3回です。前の寄稿から時間が経っており、唐突に続きを書いて何の話やらと思われる事でしょう。これまでの話を簡単に纏めて見ます。2014年にブドウ作りを思い立ち業者からブドウの苗(品種:ベニバラオー)を取り寄せ大きなプランターで栽培するお話しです。

2014 年秋に届いた苗を仮植えし、2015 年の春にプランターに本格的に植え替え、水遣り、肥料施し等色々作業をして苗が育つのを待ちました。苗は順調に育ってウッドデッキの上に取り付けてあるバルコニー屋根の下で側枝を何本も伸ばし大きな葉も付けました。これが 1 年目です。

2 年目の 2016 年は、2015 年の秋に伸びた幹を半分に剪定した所、2 年目の 2016 年は更に多くの側枝が出て葉も沢山繁りました。前に試して失望したゴーヤよりよほど立派な部屋の日除けになりました。この年は 3 房実がなりました。教本に書いてある通りの成長ぶりです。以上がこれまでの経緯です。

いよいよ葡萄栽培 3 年目です。

2017 年 4 月半ば前年末に剪定した枝から新しい芽が出て来て側枝となってどんどん伸び始めました。剪定した枝の一番先端からも新しい芽が出てどんどん伸びて来ました。主枝から出て来た側枝は 20 本近くになりました。(この側枝に花穂が付き葡萄になります)

この側枝から 1 房ずつ実がなっても今年は 20 房のブドウが取れると内心皮算用をました。花穂が出て来るまでに新しい芽の副芽を除去し、各側枝の先端を切り取る摘心の作業を行っている、2017 年 5 月初旬ゴールデンウィークの終わりごろに各側枝から小さな花穂が出て来始めました。

花穂は順調に生育をして徐々に小さな葡萄の実が育ってきました。全ての実をそのままにしておくとお一つ一つの実が小さくなるので、房の先端を切り取り余分な実を取り除く房作りと摘粒の作業をしました。1 つの房の長さは 7, 8 センチに揃えました。

花が開いて実が付き房作りも終わるといよいよ種無しのための作業を行います。ホームセンターで買って来たジベレリンと言うホルモンの顆粒を説明書に従い水で希釈しガラスコップに入れました。その後コップに 7-8 センチの房を 1 房ずつドブ付けにします。

この処理は 2 週間くらいの間隔を空けて 2 回行います。ここまで来ると後は葡萄が勝手に成長して実るのを待つだけです。6 月末から 9 月初めまでは気温が高く、ブドウの側枝や葉は成長のための水分をどんどん吸い上げます。毎日の水遣りが大事です。日に日に実が大きくなるのを見守りながら収穫を待ちました。ある程度実が大きくなると一房ずつ害虫防止のための袋掛けをしました。

7 月終り頃から緑色に育っていた実が徐々に赤味を帯び始め、実の付いた房の実は全て鮮やかな紅色に変わってきました。この年宮城県は記録的に 8 月の日照時間が少なかったので成長も遅れ勝ちのようでした。その為収穫を遅くして 9 月半ばに収穫しました。全部で 18 房取れました。思ったより房は小さかったのですが、最初の収穫としてはまずまず満足出来る物でした。全て種無しになっていて、味も甘く何房かは近所に配ったり遠くにいる子供たちに送ったりしました。

さて 2018 年本格育成の 2 年目を迎えましたが、結果からお話しすると 1 年目と同じく細々とした手入れをしたにも関わらず、残念ながら思ったように育ちませんでした。

5 月に房が出来て実が付いたのですがその実がパラパラと落ち十分育たな

い現象が起きました。所謂業界用語の“花振るい”という現象が起きたようでした。苗を購入した業者に問い合わせをしたりして原因を調べた所、果房の出来る側枝や葉が強く成長しすぎて果房に行くべき栄養が側枝や葉に取られてしまった様です。

その真因は房作りの前段階で各側枝の先端を切り詰める“摘心”作業を忘れてしまったようで、果房に行くべき栄養が側枝や葉っぱの成長に取られてしまいました。確かに今年は矢鱈に葉っぱが立派に茂るなーとは思っていたのですが。

と言う事で 2018 年は何とか 3 房に実が付きましたが、後は実が小さく 1 房の実も少ない残念な結果に終わりました。

2018 年のブドウ栽培では一寸した不注意が大きな失敗を招く事と言う貴重な教訓を学びました。この失敗を糧にしてまた今年の夏は必要な作業は工程表を作ってチェックしながら実施し、更にブドウの房は厳選した物だけに限定し、実りの大きなブドウ栽培に挑戦を続けようと肝に銘じた次第です。

以上で素人のてんやわんやのブドウ栽培の顛末記これにて終了致します。ご精読有難うございました。

なお今年無事ブドウが期待通り実を付けたらまたご報告致します。

次は中高の友人の臺君のお勧めで、私がトヨタ自動車海外勤務をしていた時の海外に於ける色々な仕事以外で経験した面白いエピソードを書こうと思っています。

2017 年 8 月に実を付けたブドウ



＜そうだ京へ行こう・古刹の花物語＞（59）

大竹漢洲

北野線の古刹 3・等持院

北野線は京福電鉄の支線です。沿線には”京都では歴史的な数々の古刹が残っています。嵐山駅と四条大宮駅との間を上下する路線が嵐山本線です。白梅町駅には緑のちんちん電車が発車を待っていました。北野線は嵐山本線への乗換え駅・帷子ノ辻駅が終点です。途中で 7 駅に停車していきます。

一駅一駅に大学生の頃の思い出が残っています。記憶している停車駅は、等持院駅・竜安寺駅(かつては竜安寺道駅と呼ばれていました)・妙心寺駅、

御室仁和寺駅(御室駅)・宇多野駅(高雄口駅)・鳴竜駅・常盤駅の次が乗り継ぐ駅・帷子ノ辻(かたびらのつじ)駅で終点でした。

この電車は家の軒先をすり抜けるように走って行きます。人の生活臭のする電車です。駅名には北野線の電車が経てきた歴史の長さを感じます。嵐電の開業が1925年ですから、今年で90周年です。次が足利氏所縁の等持院駅です。白梅町駅から等持院駅は指呼の先に見えています。緑色のチンチン電車が発車して行きました。

水上勉著 画文集『京の思い出 図絵』
ちんちん電車

堀川の上長者町にいた
等持院を出て、立命館大に入ったころだ
わきに電車道があって、電車が通った
毎日眺めていたので、古風な電車の姿が頭を
はなれない
たぶん、こんな車体だと思ったか、
まちがえているかもしれない。

直ぐ隣の等持院駅で下車して、北に向かって、町家の間の狭い路地を感を頼りに歩いています。地図案内や町人に目的地を聞くのは好みません。例え迷っても楽しいものです。大きな街でも小さな村でも、自分の感と足で歩くことは、最上の旅の喜びです。人々の生活を垣間見することもできるし、新しい発見もあります。自分流で世界を歩いてきました。楽しい思い出が数々残っています。思わぬ発見もありましたが、一方で気に入った店を見つけても、次に探せないのが難点です。

等持院の山門に迷いながら辿り着きました。立命館大キャンパスの近くに位置して、恰も大学の中にあるような寺院です。等持院は足利尊氏が、衣笠山上にあった仁和寺の別院をこの地に移して開基されました。等持寺の名の由来は面白く洒落ています。「等持寺(院)」の漢字には「寺」が三つ隠されています。一寺を建立しても三寺の価値を考えたのは、尊氏か夢窓国師か知りませんが、正に禅問答です。

等持院の建立には、紆余曲折の寺歴があります。最初は將軍足利尊氏が、柳馬場御池に等持寺を建立しました。暦王4年(1341年)。その2年後に、現在地に別院・北等持寺として移築したと言われています。開祖は夢窓国師。尊氏の死後に、足利氏の菩提寺となり等持院に改められました。

寺院の境内は、方丈・庭園・靈光殿で構成されている小さな境内です。現在の「方丈」は福島正則が、妙心寺海福院から移築した建物であると言われています。南庭をひかえた広縁を静かに進むと、驚張りの音が心地よく聞こえてきます。襖絵は狩野派の作です。

「庭園」は夢窓疎石の作庭として伝わっています。「方丈」の北庭の東には、心字池(草書体の心の字を象った池庭)があり、辺りの風景は深山の幽邃を感じさせてくれます。「方丈」の北には、池を挟んで、対岸の築山には茶室清連亭が、躑躅の植え込みの中に見られます。本来、この庭園は背後の衣笠山を借景にして作庭されましたが、立命館大学のキャンパスが庭の背後まで迫り、

味わいを喪ってしまいました。京都にある借景庭園を“売り“にしている寺院の共通した悩みです。方丈の間に座っていると、学生たちの大きな声が響いてきます。

一方書院から望む西の芙蓉池は、古い木立で仕切られ、蓮の葉を象どった庭園は、石組の間に花木が植え込まれて変化に富んでいます。方丈の西には「靈光殿」があります。足利尊氏が日頃から信仰していた利運地蔵尊（天理に適った幸運をもたらす地蔵尊）を本尊として、達磨大師と開祖夢窓国師を左右に、歴代の足利将軍の木像が安置されています。

第五代将軍義量と第十四代義栄の木像が欠けています。不思議なことに、徳川家康の木像があることです。家康の像は42歳の厄除けの靈験を受けたもので、かつては石清水八幡豊蔵坊にありましたが、明治維新の廃仏棄釈に会い、後に等持院に移されました。本尊とともに利運を願う人たちに信仰されています。

余談です。小生と慈覚大師円仁とは遠い血縁関係にあると信じていますが、足利氏も新田氏も北関東の豪族の出であることを考えると、遠い血縁関係にあるかも知れません。

幕末の勤皇佐幕の騒然とした京の都で、将軍尊氏・義詮・義満の木造頭部が鴨川の河原に曝される事件が起きました。徳川幕府への批判として、京都所司代松平容保が、嚴重な捜査を命じて主犯を探し出し処刑して終わりました。この時に現在等持院に無い義量、義栄が身代わりになって処刑されたのではないのでしょうか。兎にも角にも、等持院は不思議な寺です。

「京の思い出 凶絵」の著者の水上勉氏は、相国寺瑞春院を13歳で脱走して、17歳まで等持院で小坊主を務めて、隣の立命館大に通ったと履歴に残っています。

等持院の受付で、竜安寺の行き方を尋ねると、北野線の等持院駅と竜安寺との位置が等距離にあることが分かりました。歴史的な“きぬがけの道”と並行した小径を西に歩き始めました。等持院は心の引かれる不思議な寺です。

“きぬがけの道”は、歴史的な背景が潜んでいます。この地域の近くに衣笠山があります。“きぬがけ”は衣笠山(きぬがさやま)の名に由来しています。

かつて宇多天皇が六月の盛夏に雪景色を見たいと言い出し臣下が知恵を絞って、白い絹布を山全体に懸けさせたことから言われています。

文化講座・講演会

奈良興寺文化講座 2019年2月21日(木曜日)

午後5時半～6時半：第一講

「興福寺学侶の春日赤童子信仰」

興福寺執事長 多川良俊

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」

興福寺 貫首 多川俊映

会場：(学)文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線新宿駅3分)

第103回 新三木会 講演会のご案内

1. 日時 2月21日(木) 13時～ スターホール
2. 講師 富坂 聡氏 拓殖大学教授 北京大学中退
3. 演題 『米中経済戦争と習近平の闘い』
4. 申込 Eメール: shinsanmokukai@gmail.com

電話: 070-6994-0137 フルネーム・卒年・所属(紹介者)記入。

天地シニアネットワークで申し込んでください

5. 会費 一般2千円, 婦人千円、学生(院生)無料, 茶話会ありません
6. ホームページ <http://jfn.josuikai.net/ircle/shinsanmokukai/>

7. 今後の予定

第104回 3月21日(木) 『アメリカ「トランプの国」はいつまで続くか』

渡辺 靖氏 慶応義塾大学SFC教授 アメリカ研究 オリオンルーム

第105回 4月18日(木) 『日本の社会主義一戦前の思想・運動と群像』

加藤哲郎氏 一橋大学名誉教授 政治学 オリオンルーム

商品情報

徳島県・吉野川市・美郷

<東野リキュール製造所>

NO	商品名	(特徴)	製造元	価格
1	梅酒 白竜峡	酸味を抑える女性向	東野リキュール製造所	@2500円
2	高越山	渋みが少しあり、酒好きな方向き		@2500円
3	紅竜峡	ロゼワインを彷彿させる		@2500円
4	ホーホケキョ	特選		@3000円

ご注文は、東野リキュール製造所へ直接お申し込みください。天地シニアで知りましたと伝えてくだされば結構です。

代金は、消費税と送料(500円)がプラスになります。お支払いは、商品受け取り時、宅配業者へ代引きで(手数料なし)直接お支払い下さい。

東野リキュール製造所: 電話・0883-43-2216

FAX・0883-43-2212

日本緑茶センター 商品

商 品 名	市 価	天地幹旋価格
ハーブティー		
POMPADOUR ドイツ商品 (1.5 g x 10 ティーバッグ) <ペパーミントリーフ><カモミールフラワー><ローズヒップ &ハイビスカスフラワー><ルイボスティー・ストレート>	本体 @ 300円	@ 230円
紅茶		
ドイツのティーメーカー・テークン社製 オリジナルブランド紅茶シリーズ (1.75 g x 20 TB) <ダージリン><アールグレイ><イングリッシュブレックフ ァースト>	@ 500円	@ 380円
日本緑茶センター：ティーブティック (2 g x 10 TB) <セイロン><ローズヒップ&ハイビスカスフラワー><ピー チアプリコット><ローズティー><ブルーベリー>	@ 350円	@ 280円
マテ茶 (南米のお茶・世界三大飲料の一つ・パラグアイ)		
ティーブティック・1.5 g x 10 TB <マテ・グリーン><マテ・ブラック>	@ 380円	@ 300
アルガンオイル (92 g) (モロッコ特産) ノンロースト・タイプ (食用・化粧両用)	@ 2000円	@ 1500円
オリーブオイル [ナフィサ] (229 g) モロッコ、名門農園の製品。高級。 赤 (インテンス) : ドライ : 青 (デュース) : スイート	@ 1800円	@ 1400円
ジェーン・クレージーソルト (113 g)	@ 627	@ 500円

お申込み金額が、4千円以上の場合は、送料は天地で負担します。
お申し込みは、メール、または電話・FAX でお願ひします。

事 務 局

<投稿><図書のおすすめ>を歓迎します。

<プリント版・郵送>

メール版を編集してプリント版を月に1回発行郵送しています。

お申込みくださればお送りします。一応、実費として1月350円(4200円/年)をいただいておりますが、強制するものではありません。

<振込先>振込先：三井住友銀行「神田支店」 (普通) 7871532
(口座名) テンチシニアネットワーク

天地シニアネットワーク・テーブル・487号

発行：2019年1月31日

天地シニアネットワーク事務局（津田 孚人）

〒116-0001 荒川区町屋3-2-1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス：tentisenior06@gmail.com

電話・FAX・03-3819-7651